



大学図書館問題研究会第 28 回京都支部総会 を開催しました

日 時：2005 年 7 月 22 日（金）19:00-20:00

場 所：光琳

参加者：7 名

【第 1 号議案】2004 年度(2004. 7～2005. 6)活動総括及び 2005 年度(2005. 7～2006. 6)活動方針

【第 2 号議案】2004 年度決算案(2004. 7～2005. 6)及び 2005 年度予算案(2005. 7～2006. 6)、会計監査報告

【第 3 号議案】2005 年度大学図書館問題研究会京都支部役員候補

支部委員会から第 1～3 号議案について提案と説明があり、質疑・検討の後、ほぼ原案のとおり了承されました。2005 年度は別記、「2005 年度大学図書館問題研究会京都支部役員」を中心に、「2005 年度(2005. 7～2006. 6)活動方針」及び「2005 年度予算(2005. 7～2006. 6)」に沿って支部活動を運営していきます。支部活動へのご参加と支部運営へのご協力をお願いいたします。

[目 次]

大学図書館問題研究会第 28 回京都支部総会を開催しました	…	1
2004 年度活動総括(2004. 7～2005. 6)及び 2005 年度活動方針(2005. 7～2006. 6)	…	2
2004 年度決算(2004. 7～2005. 6)及び 2005 年度予算(2005. 7～2006. 6)、会計監査報告	…	4
2005 年度大学図書館問題研究会京都支部役員	…	6
会費納入のお願い	…	6

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：dtkk@rg7.so-net.ne.jp (大学図書館問題研究会京都支部)

URL：http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm

2004 年度活動総括(2004. 7～2005. 6) 及び

2005 年度活動方針(2005. 7～2006. 6)

はじめに

近年の情報通信技術の発達により図書館で扱う資料の種類が多様化、マルチメディア化するとともに情報(デジタル情報)そのものを取り扱うようになってきました。また情報ネットワーク環境のもとでは情報の収集・保存・流通・提供のあり方が大きく変容し、とりわけインターネットの普及は利用者の情報入手行動や情報ニーズのあり方も変えつつあります。これに対応するには、従来の技術に加え、新しい技術を適切に使い分け、活用することにより、サービスの拡張に取り組み、利用者のニーズに答えなければなりません。そのためには情報・資料と利用者を結びつける仕組みを革新していくことも必要になってきます。

このような状況下において、現場の図書館員は、予算と人員の抑制という問題をかかえつつ、サービスの多様化、高度化を迫られています。このような時にこそ、図書館員ひとりひとりの専門的力が問われています。

個々の図書館員の能力のレベルアップをはかるためには、雇用形態を問わず、すべての図書館員が協力し合い、情報の交換や研修の機会が継続的に提供されることが必要です。そのことが結果として利用者へのサービス向上につながることを図書館内外に積極的にアピールしていかなければなりません。また、利用者や書店・出版関係者とも積極的に交流等、幅広い人的ネットワークを育み、良好な協力関係を築いていくことが必要です。

大学図書館問題研究会京都支部では、このような状況を踏まえ、図書館員のより高度な力量形成に向けて活動を展開して来ました。

1. 2004 年度活動総括

(1) 研究交流活動

2004年9月25日に京都ワンディセミナー「第三者評価時代の研究者支援：引用データベースと特許データベース」を開催しました。講師として棚橋佳子氏(トムソンサイエンティフィック)と渡辺麻子氏(トムソンサイエンティフィック)をお呼びしました。プログラム前半の講師2人による講演を受け、後半は活発な質疑応答のうち終了しました。

2005年1月22日に京都ライブラリアン・セッションを開催しました。個々の会員がもつ知識やスキル、経験を共有することによって、より深く広く伸ばしたいという考えのもとに、事前に発表者を募り、4名の報告者に発表していただきました。

第1報告として、福井京子氏(京都大学教育学部図書室)が「May I help you?: プッシュ型のレファレンスサービス」を、第2報告として、進藤達郎氏(京都大学工学研究科・工学部物理系図書室)が「学部・学科図書館における電子図書館サービス」を、第3報告として、吉野貴庸氏(京都精華大学情報館)が「大学図書館のボロイングポリシー：貸借資料の複写可否」を、第4報告として、江上敏哲氏(京都大学情報学研究科図書室)が「見たい! 行きたい! 海外図書館：どう準備し、実践するか」を発表された後、活発な質疑応答がありました。

2005年5月14日には「ILL 業務」をテーマとした京都ワンディセミナーを開催しました。第1報告として井上雅人氏(立命館大学総合情報センター)が「立命館大学における図書館相互協力の現状と課題」を、第2、第3報告として大綱浩一氏(京都大学附属図書館)が「京都大学附属図書館におけるILL業務の現状」および「海外ILLのすすめ」と題する報告をおこないました。参加者数は26名でした。

セミナーの開催回数については、当初の目標を達成できました。また、内容については、京都ライブラリアン・セッションのように会員の実践発表の機会を提供し、好評を博しました。しかし、広報期間が短かったこと、セミナーの開催を新入会員の獲得につなげられなかったことは反省点として挙げられます。

(2) 支部報

新しい会員から退職者まで、執筆者の幅を拓げることに努めるとともに、支部委員が積極的に執筆することを心掛けました。内容も全国大会や支部総会、京都ライブラリアン・セッション等の報告・感想記事、会員の近況報告、図書館利用者教育、海外図書館事情などバラエティに富んだものになりました。編集体制の強化をはかり、紙面の充実をはかってきましたが、定期発行が守られなかったことが反省点として挙げられます。

また、従来、大学宛にまとめて発送していた分については、これをすべて個人宛(職場・自宅)の発送に切り替えました。

(3) ホームページとメーリングリスト

支部委員会報告や行事の案内などコンスタントに情報を会員に提供するように努めてきました。速報的なものはメーリングリスト、より詳しくまとめたものはホームページというふうに使分けられることによって効果的な広報を心がけてきました。また、今年度はメールマガジンを創刊しましたが、2号の発信までかなりの時間が空いてしまったことが反省点として挙げられます。

(4) 支部規約

京都支部は1978年10月21日(土)に結成されて以来、現在まで27年間支部活動を継続してきました。結成当初から、支部の運営は基本的には「大学図書館問題研究会」の会則に準じておこない、支部の会則をつくらずに活動してきました。しかし、会員に対しても、対外的にも、支部活動の内容を明確にするうえで会則を制定したほうがよいと支部委員会で判断し、ここに「大学図書館問題研究会京都支部規約(案)」を提案し、2005年1月22日の臨時総会で承認されました。

(5) 組織活動

会員数は87名(2004年5月現在)から81名(2005年6月現在)と6名減少しました。会員数変動の内訳は入会者3名、他支部からの転入者2名、退会者11名です。新規会員の獲得については、あらゆる機会をとらえ、積極的に勧誘を努めてきましたが、引き続き、組織的な取り組みが必要です。

(6) 財政活動

財政活動については、支部委員会として毎月状況を把握するとともに、前年度に引き続いて積極的な会費納入の働きかけを行っているところです。

また、今年度から、財政と組織を1本化して3名体制で立て直しをはかりました。会費納入率を向上するため、次の方策を実施しました。

- (1) 個人別会費納入状況のお知らせを個々の会員に発送する。
- (2) 振込用紙を個々の会員へ発送する。

(3) 会費の振込料については、支部で負担する。

2. 2005 年度活動方針

(1) 研究交流活動

会員のニーズに応えた研究活動の充実をはかり、会員の専門的力量的形成に役立てるため、セミナーを2回以上開催します。また会員間のコミュニケーションを促進するため支部報の発行、ホームページの充実、メールマガジンの発行など、一層の努力をします。

積極的に会員間の交流の機会をつくることに努めます。

(2) 支部報

定期発行に努めます。

会員の多様なニーズに応え、各人のスキルアップに貢献できる内容になるよう努力します。

読みやすい紙面づくりを心がけます。

できるだけ多くの人に執筆していただけるよう努力します。

(3) ホームページ・メーリングリスト・メールマガジン

京都支部の活動に関する情報をわかりやすく提供するために、ホームページのリニューアルを行います。

会員の親睦と交流を盛んにするための媒体として、メーリングリストを効果的に活用できるよう努力します。

また会員に対して、支部の活動状況を迅速にお知らせする媒体として、メールマガジンを、今後は定期的に発信するように努力します。

(4) 組織活動

大学図書館問題研究会および京都支部の活動を説明し、会員を増やす活動を進めます。例えば、セミナーなどあらゆる機会をとらえ、入会の勧誘に努めます。

そのために魅力ある企画を立てるように努力します。

(5) 組織活動（会費）

前年度より開始した個々の会員への個人別会費納入状況のお知らせや振込用紙の発送を今年度も引き続いて行い会費納入率の向上に努めます。

財政活動を一層前進させるため、支部委員会において、毎回担当者から報告と提案を受け、全員で取り組みます。

また、個々の会員にあらゆる機会をとらえ積極的・直接的に声をかけ、会費納入をはたらきかけます。

2004 年度決算 (2004. 7～2005. 6) 及び

2005 年度予算 (2005. 7～2006. 6)、会計監査報告

2004 年度決算 (2004. 7～2005. 6)

総収入	総支出	差引残高
380,640	207,158	173,482

■収入の部

項目	予算	決算	差引額	備考
前年度繰越金	229,631	229,631	0	
2005年度会費	0	12,500	-12,500	5名 (@2,500円)
2004年度会費	205,000	92,500	112,500	37名 (@2,500円)
2003年度会費	212,600	40,000	167,600	16名 (@2,500円)
2002年度会費		5,000		2名 (@2,500円)
2001年度会費		0		0名 (@2,500円)
2000年度会費		0		0名 (@2,500円)
1999年度会費		0		0名 (@2,500円)
支部報購読会費	0	0	0	1名 (2004年度分まで前払い/@2,000円)
支部活動援助金	10,000	0	10,000	
寄附金	0	1,000	-1,000	
セミナー参加費	0	0	0	今年度は参加費を徴収していない
口座利子	0	9	-9	
合計	657,231	380,640	276,591	

■支出の部

項目	予算	決算	差引額	備考
会報	120,000	79,735	40,265	印刷費 (32,585円) /送料 (47,150円)
研究交流会費	150,000	55,600	94,400	9月ワンディセミナー (8,900円) 1月ワンディセミナー (7,800円) 5月ワンディセミナー (38,900円)
全国委員会参加補助費	30,000	30,000	0	
事務費	10,000	18,333	-8,333	
HP維持費	24,000	22,000	2,000	
特別事業基金	200,000	0	200,000	
予備費	123,231	1,490	121,741	会費振込手数料
合計	657,231	207,158	450,073	

2005年度予算 (2005.7~2006.6)

□収入の部

項目	予算	備考
前年度繰越金	173,482	
2005年度会費	185,000	74名*2,500円
未納会費	222,500	2004年度: 45名*2,500円 2003年度: 27名*2,500円 2002年度: 17名*2,500円
支部報購読会費	2,000	1名*2,000円
合計	582,982	

口支出の部

項目	予算	備考
会報	120,000	印刷費 (70,000 円) / 送料 (50,000 円)
研究交流会費	150,000	
全国委員会参加補助費	30,000	
事務費	12,000	会費振込手数料含む
HP 維持費	22,000	
特別事業基金	200,000	
予備費	48,982	
合計	582,982	

会計監査報告

2004 年度大学図書館問題研究会京都支部会計監査報告

帳簿および現金は適正に保管・記載されていた。

2005 年 7 月 1 日

福井京子 (印)
大橋亜紀子 (印)

2005 年度大学図書館問題研究会京都支部役員

支部委員 (50 音順)

赤澤久弥 (滋賀医科大学附属図書館)
池田貴儀 (日本原子力研究所研究情報部情報メディアライブラリー)
井上敏宏 (奈良先端科学技術大学院大学附属図書館)
大館和郎 (京都学園大学図書館)
大綱浩一 (京都大学附属図書館)
進藤達郎 (滋賀大学附属図書館教育学部分館)
辰野直子 (京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館)
呑海沙織 (奈良女子大学附属図書館)
若松克尚 (京都造形芸術大学芸術文化情報センター)
渡邊伸彦 (京都大学文学研究科図書館)

監査委員

福井京子 (京都大学教育学研究科図書室)
大橋亜紀子 (豊田工業高等専門学校図書館)

全国委員

呑海沙織 (奈良女子大学附属図書館)

会費納入のお願い 2005 年度(2005.7~2006.6)が始まりました。会費の納入がまだの方は、早々のご納入をお願いします。詳しくは6月に送付しております会費納入状況通知書および振込用紙をご覧ください。また、ご不明な点は支部委員会(dtck@rg7.so-net.ne.jp)までお問い合わせください。